

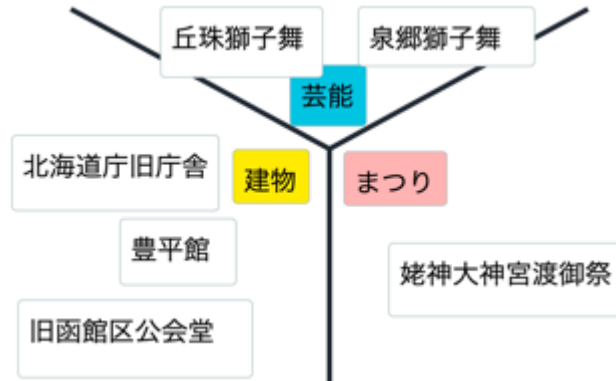
# リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央小学校（札幌市）

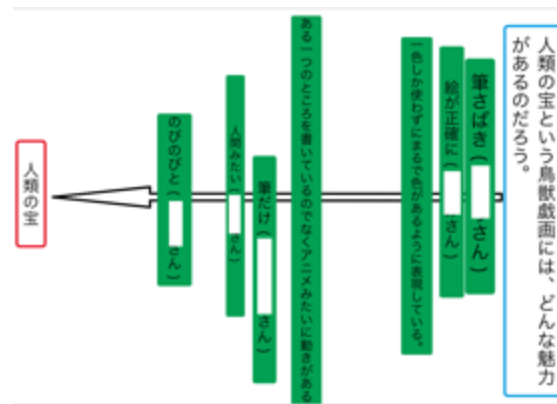
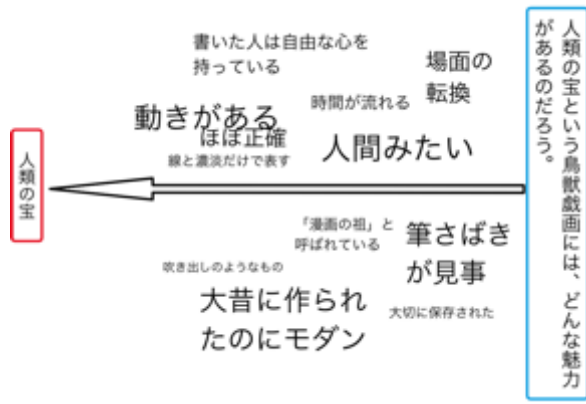
## 【取組内容①】『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実

### 【実践例①】4年 社会科 「郷土の伝統・文化と先人たち」

北海道内の文化財や年中行事にはどのようなものがあるのかを調べ、単元の学習問題をつくる。古くから残るものにはどのような願いが込められ、どのように受け継がれてきたのか、単元の見通しをもつ一時間である。



地図帳や副読本、インターネット等を用いて北海道内に古くから残る文化財について調べ、グループで「建物」「芸術」「まつり」の3種類に分類していく。個人探求の時間からグループの学びに広げていく。また、「どこ」の文化財かをマップ上にピン留めし、クラス全員分の集計を行うことで、空間的な広がりに向けさせることができる。



【実践例②】6年 国語科  
「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう」～『鳥獣戯画』を読む～  
筆者が「人類の宝」と表現する「鳥獣戯画」について、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしていく一時間である。

単元を通して、各自がテーマをもって学習できるように単元構成をデザインしてきた。本時は、個別に行われた思考が、クラウド活用によって学級内でつながっていく場面である。多様な他者の考えに触れることによって、筆者の表現の工夫やロンの進め方についての考えを深めていくことができる。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

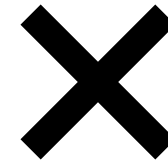
札幌市立中央小学校（札幌市）

## 【取組内容②】「動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業」



空間を超えた協働的な学びの創出  
～PBLの可能性の模索～

ICT



協働探究

探究学習コラボレーション

現在、埼玉県久喜市立久喜小学校とのオンライン協働学習を3年生から6年生と特別支援学級で進めている。昨年度までは教師主導で他校との交流を行ってきた。しかし、「学びのコントロールをもっているのは子ども自身」である。

両校の子どもたちが出会うのは、子どもたち自身の他者から「学びたい」他者に「伝えたい」という思いがきっかけである。そのような思いをもたせる授業デザインを取り入れることで、子どもたちは相手意識をもって主体的に学びに向かい、自己の学びを深めている。



## リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央小学校（札幌市）

## 【取組内容⑤】「実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及」（前期）

本校ホームページ上  
 (<http://www.chuo-e.sapporo-c.ed.jp>)において  
 随時実践内容を公開している。

また、北海道教育大学の学生や札幌市観光局・他市町村などの視察受入を通して、地域内外の普及促進の役割を担っている。



【北海道教育大学の皆さん】今年度もICTを活用した教育活動の様子の視察で、教員を志す8名の学生と3名の教授が来校しました。「デジタルとアナログの使い分けは?」「どう用いると効果的?」様々な視点で授業を分析していました。



【3年生】

本日、札幌市経済観光局観光・MICE推進部の方々が授業視察にご来校しました。先月発行された「札幌市観光副教材」をもとに、札幌市の観光プランを考えました。グループで観光テーマや行き先を話し合いました。そこで、Google mapを使って、観光ルートや交通手段を計画していきました。



8月17日開催

「リーディングDXスクール夏季学習会」@Sapporo  
 札幌市内はもとより道外からも参加があり、総勢  
 98名が参加した。

第一部では、ICTを活用した5本の実践について、  
 本校と中央中学校の教諭7名が発表した。

基調講演に広島工業大学情報学部教授・宮城教育  
 大学教育学部名誉教授の安藤明伸氏をお招きし、  
 「情報活用能力とカリキュラムマネジメント」について  
 お話しいただいた。

## 【取組内容⑤】「実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及」（後期）



12月26日 札幌市リーディングDX冬季学習会

第一部では、ICTを活用した小学校と中学校のの実践について発表した。第二部では、両校のコーディネーターである放送大学中川教授が「Next GIGAと子ども・教師・学校～5つの壁を越えて～」、同コーディネーターの広島工業大学安藤教授が「個別最適な学びを支える思考力と学習ログの必要性」と題して講演を行った。会場・オンライン合わせて、全国各地から150名の教員らが参加した。

2月8日開催 教育データ利活用シンポジウム

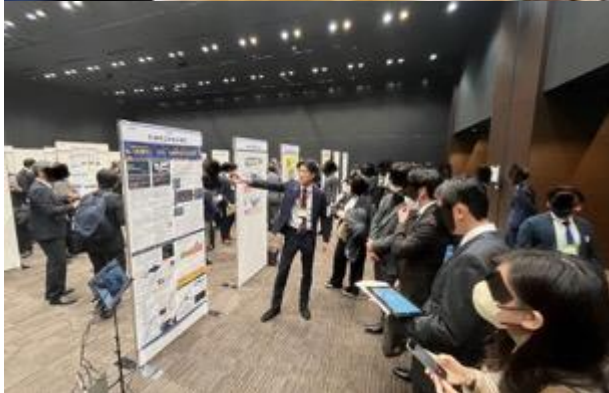
現地参加では北海道内の市町村教育委員会・教職員の皆様にお集まりいただき、オンラインでは全国の自治体より50名を超える御参加をいただいた。1年生国語・3年生道徳の授業を公開した。



2月14日 胆振教育局視察 3年生国語生成AI活用実践

3年国語「たから島のぼうけん」の授業公開を行った。教材文から着想し、物語を書いてきた児童が、内容に合わせた挿絵や表紙の絵を生成していく。イメージに近付けるためにプロンプトを何度も調整していく姿が見られた。

2月20日 生成AIパイロット校成果報告会参加



2月26日 帯広市教育委員会視察 5年生国語生成AI活用実践

5年国語「提案しよう言葉と私たち」の授業公開を行った。日常生活の中から課題意識を見出し、クラスの課題に対して自分の考えを提案していく。下書きがかけてきた児童からテキスト系生成AIとやり取りをすることで、提案文の説得力を高めていく姿が見られた。

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央小学校（札幌市）

## 【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

くらべてみた①

1銭は1円より大きい



くらべてみた①



わたし



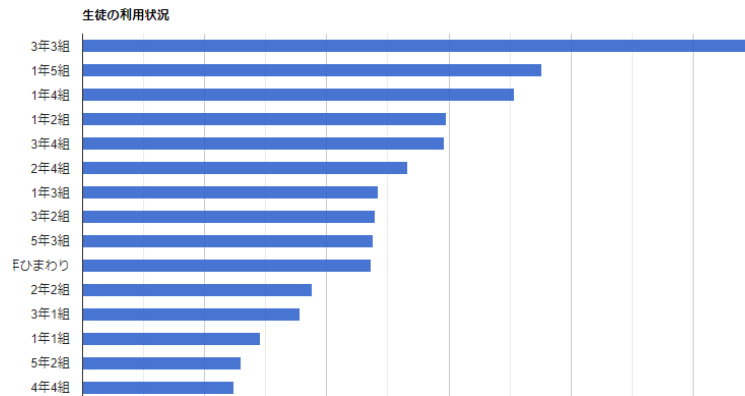

いもうと わたしのほうがせがたかいです。

くらべてみた①

クーピーのほうが、ながかった



児童数の増加に伴う、端末不足により8月から端末活用をスタートした1年生は、これまでの端末持ち帰りのノウハウを生かし、スムーズに持ち帰りに以降できるように取組を進めてきた。10月、11月で各家庭の実態調査、ネットワークテストを行い12月から持ち帰りによる家庭学習を始めていった。例えば、算数のおおきさくらべの学習では、家にあるものの大きさを比べ、写真等で提出する。学校でも家でもシームレスな学びになるよう課題設定を行った。冬休みは生活科「かぞくにこにこだいさくせん」を家庭学習の課題と設定した。端末操作に慣れない1年生児童が端末に慣れ親しむことができるように、家庭で毎日起動するようなワークシートとした。



冬季休業が大半を占める1月の学習ログは、1年生の活用が顕著になった。2月においても安定して伸びていることから、持ち帰りによる効果が表れてきていると考えられる。